



# 花房小学校だより 『はなぶし』



## 学校教育目標

自ら学び  
心豊かで  
たくましい 子どもの育成

- ① **は**っきりと話ができる
- ② **な**かよくできる
- ③ **ふ**しぎなことを発見できる
- ④ **さ**いごまでがんばる  
子どもを目指しましょう。



発行者 校長 細山田 修

本校…〒808-0108

若松区大字小竹2227番地

電話 (093) 791-0544

分校…〒808-0124

若松区大字安屋2280番地の2

電話 (093) 741-0489

「夜10時 携帯・スマホ 電源OFF いじめをなくそう 家族で取り組み」

北九州市立花房小学校・安屋分校 平成26年10月28日(火) No.16

(本校児童数 9学級…190名、安屋分校児童数 2学級…11名 計201名)

「秋の田の かりほの庵の 苔をあらみ 我が衣手は 露にぬれつつ」 天智天皇

学校の周りでは、稲刈りも終わり(本校4年生の「花房水田」も、子どもたちが鎌で刈り取りました。後日、ご報告いたします。)すっかり秋めいて参りました。

さて、遅くなりましたが、去る7月11日、12日、西日本総合展示場で開催された「いじめ防止サミット」の報告会(9月 日)の様子を下記にお知らせいたします。

## 「いじめ防止サミット in 北九州」報告会



全校児童が、サミットに参加した3名の6年生から報告を受け、感想を出し合いました。そして、スローガン「なくそう いじめ ふやそう 笑顔」を斉唱し、花房小学校でも、いじめがないようにすることを誓いました。



# 平成26年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成26年4月22日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

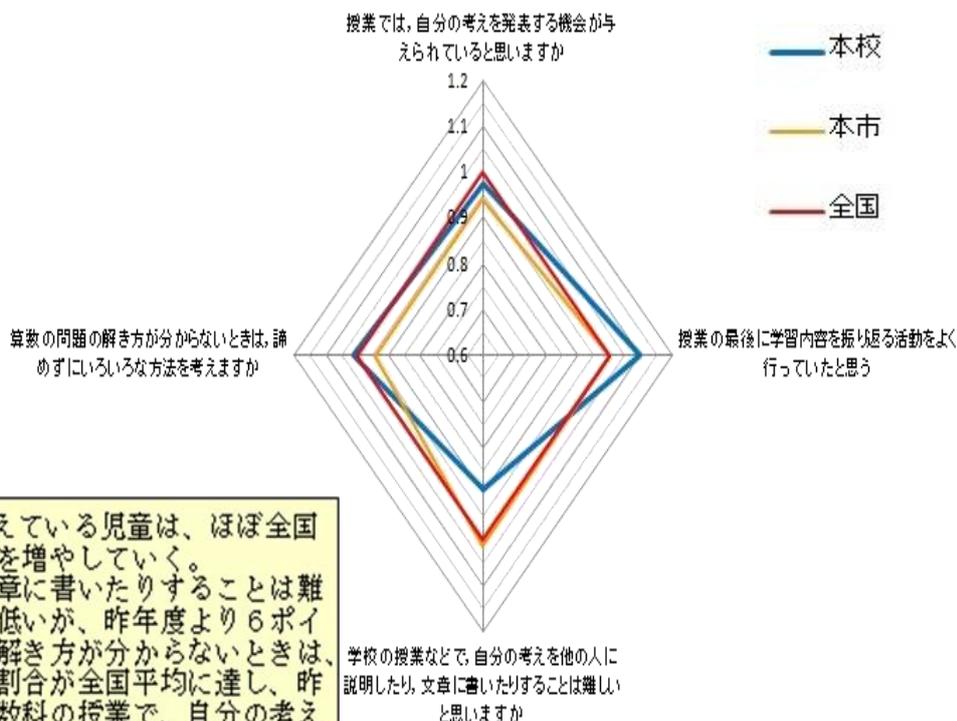
## 1. 教科に関する調査結果の概要

### ① 学力調査結果と分析

カテゴリー	全国平均との比較	学力調査の分析(傾向や特徴)
国語A	全国平均正答率を下回っている。	・全国平均正答率をやや下回っていたが、昨年度より差は縮まってきた。 ・言語についての知識・理解・技能にやや課題がある。
国語B	全国平均正答率を下回っている。	・全体的には全国平均正答率を下回っていた。 ・分かったことや疑問に思ったことを整理し、それらに関係付けながらまとめて書く問題に課題がある。
数学A	全国平均正答率を下回っている。	・全国平均正答率をやや下回っていたが、数と計算においては、正答率が全国平均とほぼ同じだった。
数学B	全国平均正答率を下回っている。	・全体的には全国平均正答率を下回っていたが、無解答率は全国よりも低く、問題を粘り強く取り組むことができるようになった。

### ② 学校における学習状況に関する調査結果と分析

本校と本市の対全国比（全国を1とする）



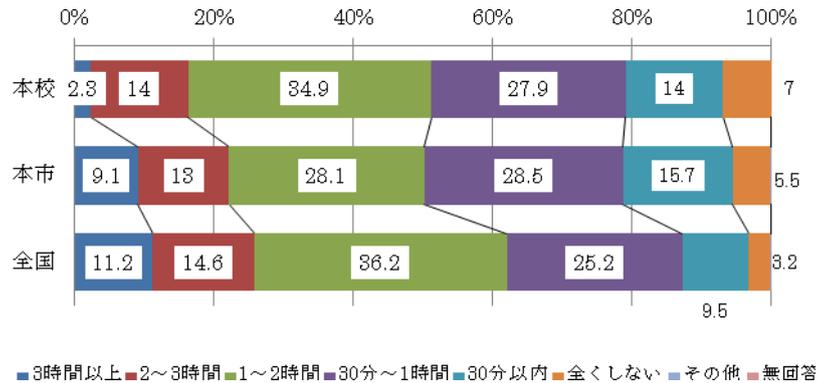
・発表する機会が与えられていると答えている児童は、ほぼ全国平均に達している。今後も発表する機会を増やしていく。  
・自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思っている割合は、全国平均より低いが、昨年度より6ポイント上昇している。また、算数の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えるという割合が全国平均に達し、昨年度より25ポイント上がっている。算数科の授業で、自分の考えを発表できる場を設けていることや、授業の終わりに振り返りを書く活動を位置付けている成果がでていいると考えられる。さらに継続して行っていく必要がある。

## 2. 家庭生活習慣等に関する調査結果の概要

### ① 家庭学習習慣に関する調査結果と分析

学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾や家庭教師含む)

・家で学校の宿題をしている児童は、98%であったが、1時間以上家庭学習をしている児童の割合は、昨年度より3ポイント減り、全国平均との差も縮まっていなかった。  
 ・自分で計画を立てたり、授業の復習をしたりという児童も、全国と比べて、8～10ポイントも差があり課題が残る。  
 ・「家庭学習のすすめ」等で家庭学習の量や時間、内容、進め方等を児童や保護者に働きかけているが、引き続き行っていく必要がある。



### ② 生活習慣等に関する調査結果と分析

- ・テレビ等の接触時間は増加し、3時間以上の長時間の利用の割合も増えていた。
- ・テレビゲーム等の時間も増加し、4時間以上の長時間の利用の割合は、全国より10ポイントも高くなっていた。
- ・将来の夢や希望をもっている児童は全国と同じくらいいる。しかし、自分には、よいところがあると思うと答えている児童の割合は、全国に比べると9ポイントも低く、自尊心が向上するような取組を行うこととそれぞれの夢を実現させるために具体的な目標設定を行い、行動に結びつけさせることが必要である。

## 3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

### ① 教科に関する取組

- ◎ 学力向上のための特設時間の実施
  - ・スキルアップタイムを火曜日、水曜日、金曜日の朝8:35～8:50に設定する。  
火曜日：国語 水曜日：算数 金曜日：算数（基本的な問題に取り組む）
  - ・職朝がある月曜日は読書、木曜日は各学級の取組を行う。
  - ・国語の授業の始めに、ひまわりの音読を行う。
  - ・国語・算数のアシストシート、基礎基本を含む活用力を育成する教材集（5・6年）を職員室の棚に、過去問題や単元 別プリントを学年別引き出しに準備する。
- ◎ 過去問題、アシストシート、活用力を高めるワークの活用
  - ・アシストシートやWEB問題を導入やスキルアップタイムで行い、答え合わせ、解説、やり直しを行う。
  - ・アシストシートと過去問を冊子にして、冬休み・春休みの「宿題帳」とする。
- ◎ 「書く」ことを習慣化
  - ・学習のめあて、まとめをすばやく書けるようにする。
  - ・学習の最後に、「振り返りタイム」として、振り返りを書くようにする。

### ② 家庭生活習慣等に関する取組

- ◎ 宿題のスタンダード化（時間、学年別、教科別内容）
  - ・（15分×学年）時間程度の課題を出す。（原則、読み・書き・計算を中心とした課題を出す。）
  - ・自主学習ノートの活用
  - ・「家庭学習の約束」の作成・実施
  - ・「家庭学習チャレンジハンドブック」の活用
  - ・家庭学習の必要性について、学校、学年、学級通信や学級・個人懇談会等で保護者への啓発を図る。
  - ・冬休み・春休みの宿題に、過去問やアシストシートを活用
- ◎ 全国学力・学習状況調査の課題と取組等を保護者へ周知
  - ・PTA理事会や学年懇談会等で、結果と取組を説明し、家庭と連携し協力体制を整える。

# 4年2組中村学級：算数科研究授業



本校教職員は、全員が、「一時間一時間の授業で、学力を高める」ために研究授業を行い、日々、互いの授業改善に取り組んでいます。右の写真は、講師をお招きしての研究協議の様子です。



# 1年1組牧学級：算数科研究授業



本校では、算数科を中核に授業研究を行っています。まず、児童一人一人が、問題の自力解決に取り組み、ペアで、その考えを説明し合い、全体でねりあいながら、思考力、判断力、表現力を高めつつ、基礎基本の定着や活用力の向上を目指しています。

残念ながら、全国学力検査は、全国平均正答率を数ポイント下回っていましたが、徐々にその差は、縮まってきています。1月のCRT学力検査に向け、どの学級も、頑張っているところです。

